

職員おススメ本

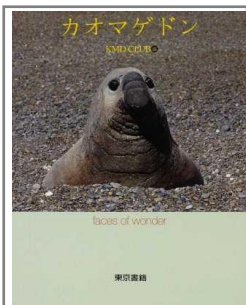


きみに届け。はじまりの歌《スターツ出版》沖田円／編

突然ですが、「自分が本当になりたいもの」ってなんですか？
意外と、なれそう、なれなそうを抜きにして「本当になりたいもの」ってなかなか思い浮かばないものだなあと思ったり思わなかったり…。
このお話では、所属している部活が廃部になってしまうことがきっかけで漠然としていた主人公の夢が動き出します。部活をきっかけになりたいものを見つけた主人公は読んでいてキラキラしてた！いいなあ青春だなあ…！（え、咲花の青春時代はいつかって？つい最近のことだよ！てか真っただ中だよ！！）
読んでてまず疑問に思ったのは、登場人物紹介に載っていなかった「ナナセ」は何者なんだ？ってこと。読み進めていくうちにだんだんとわかってくるはず。
そしてもう一つのおススメポイントは、聞きなじみのある地名がでてくること！場所のイメージがしやすいから、普段あまり本を読まない子でもきっと読みやすいと思うよ♪
ちなみに今、ティーンズコーナーでは「咲花生（さきはないく）」が頑張るティーンズのみんなを応援中！！ぜひ咲花生からエールをもらって色々なことをがんばってね！



【B913.6/オキ】



カオマゲドン《東京書籍》KMD CLUB／編

夜寝るときに天井のシミが人の顔に見える…とかそんな経験ありませんか？なぜただのシミが顔に見えるのか。この本によると、人間の脳には顔のような形をしたものを顔と認識するニューロンがあるから、なんだって！生き物の顔や、顔に見える何かがたくさん紹介されていて、章ごとの紹介文に心打たれ、しみりしながらページをめくると、全力で笑わせに来る顔の写真が…。突然笑いだしてもいいように、周囲に人がいないか確認してから読んで！！
どうして人間には顔認識機能があるのか、それはぜひこの本を読んでみてね！
…以上のことから考えると、咲花に顔が存在するかもしれない（こじつけ感）。ということで、咲花の顔らしき場所をじ——っと見つめると…あれ？！ら、ラッカセイにしか見えない（涙）
集中力が続かない、なんだか疲れた時は辺りを見渡して顔を探してみるのはいかがですか？☆

【748/カ】



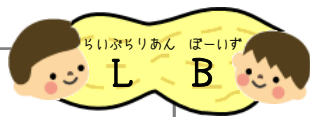
今月号の「L Aのおススメ本」はスペシャル版です！
10 ページに掲載しているので、ぜひ読んでね☆



民王《ポプラ社》池井戸 潤／著

【2Fポピ 913.6/イケ】

この本は、政権与党民政党内から総理大臣となった女好きの父、武藤泰山と将来のやりたいことが見つからない大学生の息子、武藤翔があることをきっかけに精神が入れ替わってしまい、それぞれの立場からいろいろなドタバタを引き起こしてしまうコメディ主体の本です。
一見政治を題材にした本と聞くと、難しいかな～と思ってしまうのですが、いろいろな登場人物が引き起こすハチャメチャな出来事を読んだらクスッとしてしまいます。特にこの本のおもしろいところは入れ替りがただ偶然でなく、陰で暗躍者がいるという点。
父と息子はどのようにして入れ替わってしまったのか。黒幕は誰なのか。果たして黒幕の目的は…。
いろいろ考えるのが楽しい本です。
入れ替わったらそこの国会だった！→



去年の大河ドラマの主人公西郷隆盛は、身長約180cmと考えられているそうです。当時の男性の平均身長が157cmとのことなので、かなりの高身長ですね。

この本には文献や本人の遺品などを基にして、様々な日本の歴史上の人物たちの身長や体形、さらには持病までその人の略歴と共にまとめられていて、偉人たちの意外な一面を知ることができます。自分と身長や体形が似た人を探するのも楽しいですよ。
ちなみにこの本の推測だと、LB はあの水戸黄門や織田信長と身長がほぼ同じでした。



結構嬉しい。

←織田信長の推定身長は170cm。

日本史有名人の身体測定《KADOKAWA》篠田 達明／著

【1Fレファ 281.0/ニ】

職員おススメ本



©Yuruka Morisaki

隣の席の佐藤さん 《一二三書房》森崎 緩/著

【B933.6/モリ】

クラス替えから2か月が経ちましたが、そろそろ席替えの時期かな？ワクワクするね！願わくば気になってるあの子と隣に…なんて。あー思い出しただけでドキドキ…

今回オススメするのは、席替えをしたら、“地味で真面目”な佐藤さんが主人公の山口くんの隣になることから始まるこのお話。物語は、山口くん目線で進んでいきます。最初は何とも思っていなくて、むしろ佐藤さんが隣でちょっと嫌だな、くらいに思っていた山口くんだけど、だんだん気持ちが変わってきて「いや、もうこれ、佐藤さんのこと絶対好きじゃん！」なんて思える場面がどんどん増えて…。

一方の佐藤さんは山口くんの事をどう思っているんだろう…？ああ、もどかしい。ドキドキ。

実は元々ケータイ小説で、場面分けが細かいのでちょっとずつ読みたい子にもオススメだよ！

街角図鑑《実業文日本社》三土 たつお/著

街角でよく見かける電柱やカーブミラー、なぜそこにあるのか謎なパイロン。

まるで生き物のように紹介されている彼らにちょっと戸惑いますが、読んでいるうちに「なるほど。こういう場所にいるのか。」と、気が付けばこちらも生き物扱いしています。

例えば、ペットボトルと空き缶を回収する“回収ボックス”の写真に付いているコメントを読むと、ただの回収ボックスにも関わらず、人に見えてきます。謎。この図鑑はもともと雑誌に掲載されていたものを、いろんな人の寄稿・協力のもと、一冊の本になったそうです。人の数だけ変わる街の見方に、思わずこの本をもって外出したくなるかもしれません。その時には、ぜひ図書館にも彼らを探しに来てね☆



【049/マ】

LAのイチオシは2部構成でお届けするよ！！
LBのイチオシは7ページで掲載しています。

コスパ最高



ロードバイクの基本最短マスター！

(買い方、乗り方、メンテまで)《柘出版社》

みんな、自転車は乗るかな？最近、街中でやたらとスピードが速い、シュッとした自転車を見かけることが増えたと思いませんか？それ、ロードバイクっていいです。とにかく軽く、ラクにスピードが出せて、自転車なのに半日で50キロくらいは移動できます。

この本は、ロードバイクに興味はあるけど、実際どんなものかよく知らないし…という人にピッタリの一冊で、自転車の選び方から、乗り方、お手入れのやり方、イベントまで紹介されています。

新しいことを始めたいなぁ、と考えている人、ロードバイクなんてどうですか？



【536.8/ロ】

ソロモンの偽証(上・中・下)《新潮社》宮部みゆき/著

【2F ポピ 913.6/ミヤ】

バレないウソをつける人って本当にすごいと思いませんか。思っていることが全て顔に出てしまうアニキとしては、どうせウソをついても十中八九すぐバレるので、最近はなるべくウソをつかなくてもいいような生活を心がけています。でも、とっさに小さいウソが出ちゃうんだよね。『洗濯機回した？』『ま、回したよ。(回してない)』とか『スマホ代なんでこんな高いの？』『え？え？あえ～なんでかな(ソシャゲに課金)』とか『このレシート何？この日残業じゃなかったの？』『今度、松坂屋にゴンチャでできるらしいね！(話題の転換)』とかね。イイ線行ってると思うんだけどなー。やっぱりウソはダメってことですね。ちなみに、この本の登場人物の中にはウソをついてる人がいますよ。(ネタバレ)

今月の落花生のひとつ(乗っ取ってみた)

アニキのレシート結局何だったのか気になるよね。さてはロードバイクに課金…？





青い鳥 《新潮社》重松 清／著

【2F ポピ 913.6/シケ】

コンビニくんと呼ばれていた野口君が自殺未遂をしてから2か月が経過し、野口君は転校、二年一組ではクラス全員が原稿用紙5枚以上の反省文を先生の添削を受けながら完成させた。廊下には真新しい「青い鳥BOX」が設置された。そんな折、休職中だった担任の高橋先生の代わりにやってきたのが村内だった。村内は一度片づけた野口君の机と椅子を教室に戻し、毎朝野口君の机に声をかけていた。

「野口君のことを忘れちゃダメなんだ。忘れるのは、ずっ、ずるいだろ？」
村内の本心は？口下手で吃音のある村内の「本気」の授業がはじまる…。

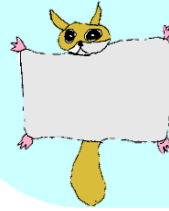


似ている動物「見分け方」事典

《ベレ出版》木村 悦子／執筆 北澤 功／監修

【1F レファ 481.1/ニ】

動物たちの中には、ヒョウとチーター、ヒラメとカレイなどのように、見た目がよく似ているものがたくさんいます。この本では、そんな似た者同士の生き物の違いが、イラストと共にくわしく解説されています。見た目の違いだけでなく、生態や性格の違いについてもよく知ることができますよ。見た目はそっくりなのに、実はこんなに違う生き物だったんだ！という驚きをぜひ楽しんでください。

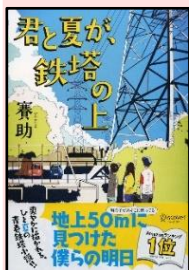


ではここでクイズ。左のイラストはムササビとモモンガのどちらでしょうか？この本を読めば一目瞭然（のはず）です！



君と夏が、鉄塔の上

《ディスクヴァー・トゥエンティワン》賽助／著
【F913.6／サイ】



夏休みの登校日、僕は学校の変人・帆月に誘われて、クラスメイトの比奈山と一緒に「ある鉄塔」を見に行くことに。そこで3人は鉄塔の上に着物の子どもが座っているのを見てしまう。さらに、帆月の提案で夏休み中にその子どもの謎を解くことに…

「君と夏が、鉄塔の上」内容が全く想像できない！とタイトル借りした落花生2号。著者の斜め上なストーリー展開に登場人物と一緒に振り回され、ドキドキしながらひと夏を終えました（まだ8月…）。

いつも通りの夏休み、イベントがいっぱいな夏休みにちょっと不思議な体験がしたかったらぜひこの本を読んでみてね！

ヘアゴム1本でできる「まとめ髪」便利帳
《宝島社》 HAIR/監修 【595.4/へ】

夏が来たよ！おしゃれしてでかける場所がいっぱいだね！可愛い髪形にしたいのに、暑くて髪の毛なんて巻いてられないよ～！！っていうそこの女子たち！！わかりみがすぎる…。しかし！そんなときは！この本を読みながら結んでしまえばいいのです！（ドヤ）

この本の良いところは、紹介ページにQRコードがついているところ。察しのいいみんなならもう分かったかもしれないですが、スマホで読み取ると、本で紹介されている髪型を、動画でも見ることが出来ます。



———便利な世の中になったものだ…。
浴衣を着るときやプール・海に行くときにも使えるね！

他にもティーンズコーナーには、ネイルやファッションなどのおしゃれに役立つ本が多くあります（メンズ向けの本もありますよ！）。良かったらお気に入りの1冊を探して夏を満喫しておね！



パーマネント神喜劇《新潮社》万城目 学／著 【2F 913.6/マキ】

何をしても慎重で「まずはじめに」が口癖の篠崎肇^{はじめ}が恋人とデート中、突然自分以外の周りの時間が止まってしまう。驚く肇の前に神を名乗る男が現れ、その口癖を失くすと告げる。果たして肇はどうなるのか…

あらすじだけだと肇が主人公のようですが、実はこの本の主役は神様の方。小さな神社で千年以上も縁結びの神を勤める神様の奮闘を描きます。最大の魅力は何と言ってもこの神様。上級神や縁結びのノルマについて愚痴ったり、昇任話に一喜一憂したりとかなり人間くさい、けれど同時に自分の役目に強い使命感と誇りを持っていて、こんな神様ならさっさと拝みたくになりますよ。



セイバーメトリクスの落とし穴
～マナー・ボールを超える野球論～
《光文社》お股ニキ

【536.8/ロ】

どうしてもタイトルよりも著者に目が行く！しかもニキとかついてるし、な○J民ばいしどんな人？って思うよね。一言でいうと、あのダルビッシュ投手のネットのお友達なんです。この2人が仲良くなったきっかけはツイッターだそうで、お股ニキさんがダルビッシュ投手についてのツイートしたところ、なんと本人から返信があったことがきっかけだそう…今ではダルビッシュ投手からアドバイスを求められる仲だそうですよ。

世界一ハイレベルな野球の舞台、アメリカ・メジャーリーグで、どんなことが起きているのか、今後日本のプロ野球ではどんなことが起きるのか、ダルビッシュ投手のネットのお友達が独自の視点とデータを織り交ぜながら教えてくれます！



村上ラヂオ

《マガジンハウス》村上春樹／著

【2F ポピ 914.6/ム】



村上春樹って知ってますか。ノーベル賞の時期になると毎回騒がれて、世界的に熱狂的なファンがいる、ちょっと気持ちの悪い、ちょっとロリコン気味のおじさんが、そう、

村上春樹です。この人、偉大なおじさんではあるのですが、作風が独特なため『興味はあるけど、難しそう』『結末がよくわからない』『イミフ』などという話もよく聞きます。残念！非常に残念です。めっちゃ面白いおじさんなのに！ただ、確かにそういう気持ちもわかります。長編だと結構長いしね。まずはこの本から入って、ムラカミワールドに触れてみましょう。脱力感がすごすぎて、『これがノーベル賞候補の文章なの！？』と混乱すること請け合い。友達に「え、本？何読んでるの？」と聞かれたら、『村上春樹だけ？』とドヤれるのもポイント高し。

<アニキのひとこと>

シニョーラ、あんた運転なんかしないで、うちでパスタでも茹でてな！





職員おすすめ本コーナー



きみに、涙。

《スターツ出版》沖田 円, 春田 モカ,
菊川 あすか, 汐見 夏衛, 麻沢 奏, 櫻 いいよ／著
【B913.6/キミ】



みなさん、涙活(るいかつ)って知っていますか？泣けるお話を見て涙を流しましょうという活動です(ざっくり)。涙を流すことは、とってもいいストレス発散になるんだって。落花(おちはな)もたまーに夜な夜な泣ける映画なんかを見ちゃったり本とか読んじゃったりすることがあります(プチ暴露)

この本は、短編集なので、いろんなジャンルの泣けるお話が詰まっています。隙間時間にちょっとずつ読めるのもおすすめ。ぱらっと見てみると、タイトルからすでにベリーベリーエモーショナルな香りが漂っています。

秋はなんだかちょっと寂しい気持ちになる季節。別に悲しいわけじゃないけどなんか泣きたいなって気分ときにはいっそ涙活しちゃうのもアリ！(だけど、目がパンパンに腫れちゃう子は翌日のスケジュール要チェック)

宇宙には、だれかいますか？

科学者 18 人にお尋ねします。
《河出書房新社》佐藤勝彦／監修 縣秀彦／編集

地球外生命体(宇宙人)といえば、酢昆布 LOVE で日傘必須の神〇ちゃんや戦闘力 53 万のフオーザ様が有名だよ。そして最強設定。会ったこともないのに「宇宙人はきっと強いに違いない！」っていう私たちの期待を向けられる宇宙人…。…その前に！宇宙人っているの？気になるよね！そこで、18 人の科学者に「宇宙には誰かいますか？」と質問してみたのがこの本です。

と—————っても専門的な内容だけど、18 人の科学者がいろんな視点からする宇宙の話は、とっても分かりやすいし、興味深く、新しい世界を見せてくれます。キャラクターはたくさんいるのに本物を見たことがない宇宙人。みんなは宇宙には誰かいると思う？ちなみに落花生は地球生まれ・地球育ちだからね！



【440.4/ウ】



身長を伸ばす 7 つの法則 《主婦の友社》黒川伊保子、佐藤智春／著

【2Fポピ 493.9/シ】

突然ですが、みんなは身長何センチ？将来は何センチが目標かな？僕(今年 30 歳ですが?)、とっても正直者なので身長を聞かれると「169センチです。」と答えるのですが、だいたい「あ〜、あと1センチ欲しいよね。」という、哀れみの反応が返ってきます。あと1センチあれば、夢の大台170センチに届きますが、さすがに今から1センチ伸ばすのはちょっとムリかな…この本を参考にして、成長期にぐんと身長が伸びる生活習慣を心がけて、僕の無念を晴らしてください。



白ゆき姫殺人事件

《集英社》湊 かなえ／著

【2Fポピ 913.6/ミナ】

ある化粧品会社の美人社員が雑木林で不可解な死を遂げた事件について、フリーライターの赤星が美人社員の同僚狩野から事件に関する情報提供を受け、取材を始めるところから物語が始まります。

この本の面白いところは、多くの根拠のない証言が出てくる中、アリバイや証言から報道が勝手に過熱していく点です。同僚や同級生の証言を通して読者に犯人を推理させると同時に、情報にあふれた現代社会の怖さを感じさせられます。

また、巻末の参考記事を読みながら話を読み進めるのも楽しいです。

さてあなたは数多くの証言の中から虚偽の証言を見つけ出し、真犯人を探し出すことはできるでしょうか？

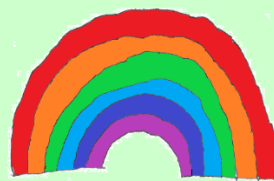


虹の図鑑

《緑書房》武田 康男／文・写真

【1Fレファ 451.7/ニ】

虹というと、ほとんどの人はイラストのような7色に分かれたアーチ状のものを思い浮かべると思いますが、でも実は、光の当たり方や見る位置によって、色も形も様々って知っていましたか？この本は、虹ができる仕組みや見つけ方、撮影方法など虹に関する知識が詰まった虹尽くしの一冊です。身近だけど意外と知らないことの多い虹の世界に触れることができますよ。



もちろん、虹の写真も豊富に載っていて、写真を見るだけで十分楽しめます。特に、色が重なりあって白く見える虹や月光でできた虹は、普段ほとんど見られないので一見の価値あり！

<落花(おちはな)の今月のひとこと>

ちなみに11月11日は落花生(らっかせい)の日だよ!!みんなでお豆を食べよう!





じゃあ君が好き
《主婦の友社》ヨシタケシンスケ／著

——「??これはいったい、何を伝えたい本なのかなあ…?でもなんだかクセになるなあ。」

読んでいるときの率直な感想です。実はこれ、日常生活のなかで作者が出会った「思い付いたこと」のイラストをまとめた本なんだって。イラストの順番もバラバラで、初めは戸惑うかもしれないけど、日常生活のリアルな「ほっこり」を感じることができるし、たくさんあるイラストのなかで「確かに!」と思うものがきっと見つかるんじゃないかなと思います。



【N726.1/シ】

ちなみに落花(おちはな)は、『おフトンに対して失礼なので、おフトンの中での心配事はつつしみましょう』というイラストがとても心に残りました。確かに親愛なるおフトンの中に入るなら、おフトンに集中しなきゃいけないよなあ。でもおフトンに入って落ち着いた時っていろいろ考えちゃうものだよな。(というか“おフトン”ってかわいい。)みんなはどうですか??

星へ行く船 星へ行く船シリーズ1
《出版芸術社》新井素子／著

何もかも捨ててしまいたい!って思ったことある? この本は、ある理由で主人公が地球の宙港(ちゅうこう)から終点の惑星シイナに出发するシーンから始まります。そう、家出です。何を隠そう、家出です。パスポートも入手し、入国審査をして宇宙船に乗り込んで地球とのお別れも済み、家出は順風満帆…のはずが!宇宙船の個室を予約していたはずなのに、旅行会社のミスで山崎太一郎という人と同室に…そのせいで思わぬ争いに巻き込まれてしまいます。

SFというと人工知能が〜とかスーパーヒーローが〜っていうイメージがあるよね!この本は少し違って、人物中心で物語が進みます。個性的な登場人物がモヤモヤした気持ちを言葉や行動に表してくれるので「そうなんだよね…」と思わず共感してしまいます。シリーズ5巻あるので長編読みたい子におすすめです!



【F913.6/アラ】

鉛筆一本ではじめる光と陰の描き方
《インプレス》OCHABI Institute／著



【2Fポピ N725/エ】

僕、実は『画伯』なんです。絵心ない芸人が描く絵は僕が描く絵そのものです!見る人を笑顔にできるので、長所のひとつだと思っています(嘘)。

でも、上手なイラストをササッと描けたら素敵だなあ…とは思うことは多いです。この本は、鉛筆の持ち方や描きたいものの見方などが『画伯』でも理解できるように書かれています。「あ、絵が上手な人はこういう風に見ているんですね、知りませんでした…(汗)」と新鮮な気持ちになりました。『脱・画伯』を目指すみんな、ぜひお試しあれ!

ごはんぐるり
《NHK出版》西加奈子／著

【2Fポピ F914.6/ニシ】

芸人さんがテレビで言っていたんだけど“エビ”を食レポするときには「ぶり(っ)ぷり」という言葉を使ってはいけないそうだ。確かに使い古されてるなーとは思うけど「この弾力が」とか「かむ度に味が…」とか聞くと、ほめるところそこじゃねーだろ!と思うのは自分だけだろうか。

藤井7段のお昼ご飯が、羽生くんの演技後に投げ込まれるプーさんが注目されるような違和感。いや、そこじゃねーだろ!ゆづるで注目すべきは、切れ長でセクシーな目元、意外に荒い言葉遣い、おしりからふくらはぎまでの曲線…(いや、そこじゃねーだろ)ちなみに「そら豆の天ぷら」「いいねえ」のコールアンドレスポンスの話があるあるで、面白いです。



大逆転! 奇跡の人類史

《NHK出版》NHKスペシャル「人類誕生」制作班／著
馬場 悠男、海部 陽介／監修



【1Fレフ 469.2/タ】

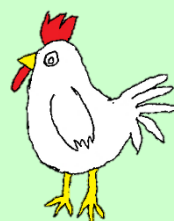
人類の歴史と聞くと、世界史の授業でも猿人⇒原人⇒旧人類⇒新人類の順に進化したよ〜と簡単に習いますが、「ルーシー」と名が付いたアウストラロピテクスが生きてたと言われる時代は400万年前にも遡ります。その途方もなく長い期間、ホモ・サピエンスは何度も絶滅の危機を経験し、奇跡的に乗り越えてきました。特に40万年前に発生したネアンデルタール人はホモ・サピエンスよりも脳が大きく、体格も頑丈で強く、ホモ・サピエンスのライバルだったとされています。ではなぜ、より優れた進化を遂げたネアンデルタール人が絶滅し、ホモ・サピエンスが繁栄したのでしょうか?そこには生存競争に勝ち残るホモ・サピエンスならではの術がありました。授業でも習わない祖先の歴史を知ると、面白いかもしれませんよ。



叙述トリック短編集
《講談社》似鳥 鶏／著

【2Fポピ 913.6/ニタ】

叙述トリックという推理小説のジャンルを知っていますか?文章そのものに読者を騙すトリックが仕掛けられた小説のことです。例えば「私」の視点で書かれている小説で、実は書き手である「私」こそが犯人だった!などがありますね。タイトルの通り、この本に載っている話には全てこの叙述トリックが仕掛けられています。作者に騙されることなく、真相に気付けるかどうかぜひ挑戦してみてください。



また、一度読み終わった後にもう一度読んでみるのもおすすめです。最初に読んだときにはアレ?と思う部分が出てくるので、そこに納得しながら読んでいくのも面白いですよ。